

# 令和5年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■自主研究 4	公益目的事業 16
主査名	有村俊秀 早稲田大学教授	
研究テーマ	ガソリン車及び次世代モビリティの脱炭素に向けた政策手段の総合的研究	
<b>研究の経過（4月～9月）：</b> 以下の日程及びテーマで研究会を行った。 第1回：2023年6月14日（水） オンライン 「応用一般均衡モデルによる炭素税導入の地域別効果の分析」（報告者：武田史郎） 第2回：2023年7月13日（水） オンライン 「日本におけるEVの普及と各国の状況」（報告者：岩田和之） 第3回：2023年9月20日（水） 対面（大阪） 「炭素税導入の輸送部門への効果影響分析のためのCGE構築」（報告者：有村俊秀・武田史郎）  次世代モビリティ分析については、次世代自動車普及政策について、欧州での都市での状況について情報収集を行った。特に、EV充電ステーションや、公共交通における次世代自動車について調査を行った。 ガソリン自動車への炭素税導入の効果については、輸送部門を強化した多地域・応用一般均衡分析モデルを構築する準備を進めた。具体的には47都道府県の地域を9地域に集計する作業を行った。また、輸送部門を地域レベルで、自動車と鉄道に分離する作業を進めた。  <b>下期へ向けて（課題等）：</b> 下期は以下の研究会を開催する。 第4回：2023年12月8日（金） オンライン 「課税自主権の活用と地方環境税～フランス交通税の可能性～」（報告者：京都府立大学 川勝健志教授）  下期に向けての課題は 多地域型応用一般均衡分析モデルを構築するにあたり、地域産業連関表において、鉄道部門と自動車輸送に分離する作業である。この点が、適切にできるかどうかが課題である。		